

長久手市行政評価票（S票：施策評価票）

施策番号	S33	施策名	福祉関係(障害者手当、福祉医療費、各種検診、予防接種等)の費用負担の見直し
担当部課	福祉部保険医療課	関係部課	福祉課、保険医療課、健康推進課

基本情報	第6次総合計画・基本目標	4 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち
	行政改革指針・重点課題	—
	法定受託事務の有無	無
	その他(関係計画、要綱等)	有 データヘルス計画、国民健康保険法、地域福祉計画
施策開始の背景、経緯等	高額な治療による医療費の増大を抑えるため、ハイリスク者を対象とした重症化予防事業を行う。	

施策の目的等	施策の内容	(どのような施策なのか) 健康リスクが高い人に対し、対象者の状況に合わせた通知を発送する。中でもハイリスク者に対しては専門医等による保健指導を行う。
	施策の対象	(誰、何を対象にしているか) 長久手市国民健康保険被保険者の内、レセプトデータ及び特定健診の結果から基準値を超えた者
	施策の意図	(対象をどのような状態にしたいか) 健康状態をコントロールし、重症化することを防ぐ。

目標・成果推移等①	施策に係る取組① 重症化予防事業									
	R4年度(2022)		R5年度(2023)		R6年度(2024)		中期(おおよそ3年後)		長期(おおよそ5年後)	
	成果・実績		成果・目標		成果・目標		成果・目標		成果・目標	
	受診勧奨を行い、重症化する前に治療できるようにする。専門医等と協力した保健指導により、人工透析や手術に移行しないようにする。		受診勧奨を行い、重症化する前に治療できるようにする。専門医等と協力した保健指導により、人工透析や手術に移行しないようにする。		受診勧奨を行い、重症化する前に治療できるようにする。専門医等と協力した保健指導により、人工透析や手術に移行しないようにする。		受診勧奨を行い、重症化する前に治療できるようにする。専門医等と協力した保健指導により、人工透析や手術に移行しないようにする。		受診勧奨を行い、重症化する前に治療できるようにする。専門医等と協力した保健指導により、人工透析や手術に移行しないようにする。	
	費用・実績(細々節名)(金額)		費用・見込み(細々節名)(金額)		費用・見込み(細々節名)(金額)		費用・見込み(細々節名)(金額)		費用・見込み(細々節名)(金額)	
	保健事業業務委託	4,975千円	保健事業業務委託	4,834千円	保健事業業務委託	4,975千円	保健事業業務委託	4,975千円	保健事業業務委託	4,975千円
	保険者独自提供データ作成委託	773千円	保険者独自提供データ作成手数料	773千円	保険者独自提供データ作成手数料	773千円	保険者独自提供データ作成手数料	773千円	保険者独自提供データ作成手数料	773千円
	市民参加数・実績		市民参加数・見込み		市民参加数・見込み		市民参加数・見込み		市民参加数・見込み	
	(延べ) 受診勧奨 400 人 保健指導 23 人		(延べ) 受診勧奨390 人 保健指導 25 人		(延べ) 受診勧奨380 人 保健指導 25 人		(延べ) 受診勧奨370 人 保健指導 25 人		(延べ) 受診勧奨370 人 保健指導 25 人	

目標・成果推移等②	施策に係る取組② 福祉医療費支給制度									
	R4年度(2022)		R5年度(2023)		R6年度(2024)		中期(おおよそ3年後)		長期(おおよそ5年後)	
	成果・実績		成果・目標		成果・目標		成果・目標		成果・目標	
	令和5年1月から、子ども医療費について、高校生世代の入院にかかる医療費の支給に対する所得制限を撤廃し、高校生世代全体に対象を拡大した。		子ども医療費の高校生世代の通院に対する支給について、近隣自治体の状況や既存事業の取捨選択などの財源確保も含め、実施の検討を行っている。		事業を継続		事業を継続		事業を継続	
	費用・実績(細々節名)(金額)		費用・見込み(細々節名)(金額)		費用・見込み(細々節名)(金額)		費用・見込み(細々節名)(金額)		費用・見込み(細々節名)(金額)	
	子ども医療費	440,288千円	子ども医療費	435,151千円	子ども医療費	439,502千円	子ども医療費	443,897千円	子ども医療費	448,335千円
	障害者医療費	86,767千円	障害者医療費	101,773千円	障害者医療費	104,826千円	障害者医療費	107,970千円	障害者医療費	111,209千円
	市民参加数・実績		市民参加数・見込み		市民参加数・見込み		市民参加数・見込み		市民参加数・見込み	
	(延べ) 0 人		(延べ) 0 人		(延べ) 0 人		(延べ) 0 人		(延べ) 0 人	

活動状況	活動エピソード	(活動のエピソード、コメント、特記事項など) 超重症化予防事業は保健指導をするうえで、スマートフォンアプリの使用状況や所持の有無から、スマートフォンアプリと紙による保健指導を行った。対象に合わせた保健指導方法を考慮した。
------	---------	---

改善状況	改善ポイント	(何をどのような状態に改善したのか、改善が必要なことなど) 超重症化予防事業は、委託業者、専門医・薬剤師・栄養士等、幅広い職種の人に関わることもあり、事前調整に時間がかかる。専門医が問い合わせたい時、窓口がどこになるのかわかりにくいという意見があり明確にしておく必要があった。
評価	評価・課題	(進捗状況や課題など) 超重症化予防事業について、参加者の定員と参加同意者の差があり、より興味・関心をひく案内の方法を検討する必要がある。
費用対効果	施策の意図に係る費用対効果の分析	(施策の意図に係る費用対効果の分析、検討、研究の状況など) 人工透析は一人当たり年間500万円程の医療費がかかるため、ハイリスク者には個別で積極的に介入をしていく必要がある。
今後	今後の方向性、改善点	(施策を実施するにあたって今後の方向性、改善点など) 保健指導の方法としてスマートフォンアプリ、紙など、継続できるように選択肢を増やしていく。また参加してくれる対象者を増やす方法も検討する必要がある。